

シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数
社会学演習（3）（6）	2020	通年	火4	文学部 社会学専攻、 社会情報学専攻（情報コミュニケーションコース）	佐藤 恵	3年次配 当	4

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

授業で使用する言語（その他の言語名）

授業の概要

演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え！』」です。

「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行うのが社会学です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。

当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会的に研究し、ゼミ論（3年次）、卒論（4年次）を作成できるようになることをめざします。社会的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

科目目的

- 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
- ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

到達目標

授業計画と内容

ゼミ活動の具体的な内容としては、①ニュース記事等に基づくディスカッション、②ゼミ論・卒論作成（構想発表+ディスカッション、論文執筆）、③ゼミ合宿、④イベント・懇親会等です。ゼミの運営方法に関しては、教員主導ではなく学生主体を原則として、そのつどみんなで話し合いながら決めていきたいと思っています。

その上で、わたしは、「楽しくなければ社会学じゃない」と考えています。ただし、「楽しい」＝「不真面目」という「常識」、言い換えれば、「真面目」＝「楽しくない（暗い、重い、難しい）」という「常識」が、わたしたちをしぼりがちなことには注意が必要です。「真面目 and 楽しい」＝「社会学」というゼミのあり方を追求していきたいと思っています。

第1回 前期オリエンテーション

ゼミ論・卒論の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション

前期ゼミ運営方法に関する話し合い

：ディスカッション

第2回 論文執筆のテーマ、研究計画の検討

自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定

：ディスカッション、プレゼンテーション

第3回 先行研究の検討（1）

研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討

：ディスカッション

第4回 先行研究の検討（2）

研究テーマに関連する先行研究の検討結果を発表

：ディスカッション、プレゼンテーション

第5回 調査内容の決定と調査の実施に関する指導

適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討

質的調査（インタビュー法、観察法、ライフストーリー法）や文献調査

：ディスカッション

第6回 研究方法の決定、調査内容等の検討

調査対象、調査時期、調査内容について発表と指導

：プレゼンテーション

第7回 研究の中間とりまとめ（1）

中間報告に向けた準備：研究における問いという観点から

：プレゼンテーション

第8回 研究の中間とりまとめ（2）

中間報告に向けた準備：仮説構成という観点から

：プレゼンテーション

第9回 研究の中間のとりまとめ（3）

中間報告に向けた準備：調査の方法という観点から
：プレゼンテーション

第10回 調査研究データの分析（1）
収集したデータの整理
：グループワーク

第11回 調査研究データの分析（2）
収集したデータの分析
：グループワーク

第12回 論文の構成・考察に関する検討
論理整合性、独自性の検討
：グループワーク

第13回 論文の結論に関する検討
問いに対応したかたちでの結論の提示
：グループワーク

第14回 前期総括
前期ゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る
：ディスカッション

第15回 後期オリエンテーション
論文執筆・完成に向けたオリエンテーション
後期ゼミ運営方法に関する話し合い
：ディスカッション

第16回 中間発表会（1）
問題意識の明確化を中心に
：プレゼンテーション

第17回 中間発表会（2）
データの読解を中心に
：プレゼンテーション

第18回 中間発表会（3）
論文のストーリーラインを中心に
：プレゼンテーション

第19回 中間発表会（4）
結論を中心に
：プレゼンテーション

第20回 調査の実施状況の確認（1）
研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認（データ収集の側面）
：プレゼンテーション、ディスカッション

第21回 調査の実施状況の確認（2）
研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認（データ分析の側面）
：プレゼンテーション、ディスカッション

第22回 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション（1）
調査結果のとりまとめ方を改めて検討
：プレゼンテーション、ディスカッション

第23回 調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション（2）
研究方法・研究テーマに即した分析と解釈になっているか検討
：プレゼンテーション、ディスカッション

第24回 論文のブラッシュアップ（1）
論文の構成に留意して
：プレゼンテーション、ディスカッション

第25回 論文のブラッシュアップ（2）
先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意して
：プレゼンテーション、ディスカッション

第26回 論文のブラッシュアップ（3）
データ読解の掘り下げ方に留意して
：プレゼンテーション、ディスカッション

第27回 論文の最終チェック
ゼミ論・卒論の構成の確認
各章のつながり、ストーリーラインの観点から
：プレゼンテーション、ディスカッション

第28回 年間総括
1年間のゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る
：ディスカッション

授業時間外の学修の内容

授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、構想発表および論文執筆に備えてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準（備考）

ゼミ論・卒論の達成度（70%）、平常点（30%）。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、4年次以上で履修する社会学演習（6）は卒業論文あるいは卒業研究論文の合格をもって単位が与えられます。この点をくれぐれもご注意ください。

課題や試験のフィードバック方法

課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）

アクティブ・ラーニングの実施内容

アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）

授業におけるICTの活用方法

授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

実務経験のある教員による授業

【実務経験有の場合】実務経験の内容

【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

また、参考文献は授業中に随時、紹介します。

その他特記事項

参考URL

コメント1

コメント2

特別措置期間中は、manabaを中心としたオンライン授業を実施します。

当該期間においては、manaba上で資料を配布したり（資料配信型授業）、あるいはmanaba上で自習用の学習課題を提示したり（自習中心型授業）した上で、資料の理解度や自習の成果を小レポート等で確認するといった授業をベースとした上で、適宜、双方向型授業の要素を取り入れる可能性も探っていきます。

特別措置期間以降における授業形態・授業運営方法については改めて連絡しますが、原則として前期はすべてオンライン授業となる見通しです。

授業の成績評価方法は「成績評価方法」欄に示した通りですが、オンライン授業においては「平常点」を「小レポート」に読み替えます。

コメント3

コメント4
